

第6回金山駅周辺まちづくり構想懇談会 議事要旨

○日 時：平成28年2月5日（金）13時30分～15時30分

○場 所：名古屋市役所西庁舎12階 第10会議室

○参加者：19名（随行者、傍聴者、事務局等除く）

1. 1) アンケート追加集計結果報告について

発言者	内容
松本委員	1人暮らしについては、女性は高齢者の割合が高く、男性は若い人の割合が多い。女性は高齢者が多いため住宅環境や緑の充実への要望が高い一方で、男性は比較的若い人が多いため商業施設への要望が高い。ただし、女性でも若い人の場合は商業施設への要望が高いと思う。一番重要なのはP.44のまとめになる。 外国人は、おそらくアジア系は居住者が多く緑を希望し、欧米系は観光客が多く買い物環境の充実を希望しているのかもしれない。居住者と訪問者と要望に違いがあるが両方を対象として考えなければいけない。両方がマッチしてまちがにぎやかになる。
前川委員	飲食物販・商業施設は名駅・栄などに負けるが、イベント目的・文化芸術が金山の特徴だろう。防犯はこれからまちを作っていく段階で重点的に考えていくこと、回遊性も重要だろう。
松本委員	回遊性を生み出す方法はいくらでもある。歩いて楽しめるまちは大事である。子どもがまちなかに出てくることも大事だが最近見かけない。子どもが出てくると若い両親が出てきて、若者も集まり出す。原宿は若過ぎる気もするがよい例である。生活と密着した金山も大事にしたい。
鈴木委員	最後のまとめに、海外の方の視点を加えるとよい。せっかく分析したので言及が必要だろう。
松本委員	ゆったり過ごせる潤いのあるまち、道に子どもや若い両親の姿が見えるまちがよい。公園だけでなく駅にも出てきてほしい。
JR 東海企画開発部 担当課長	P.44、上から3項目目について、年齢層が高いと行動範囲が広がるというのは、市民会館へ行く人が多いという意味か、あるいは複数カ所に立ち寄っているという意味か。
住宅都市局まちづくり 企画課企画係長	想像の範囲となるが、まず市民会館の存在は大きい。次に年齢が高いとゆっくり町を楽しむ傾向があることから、結果として滞在期間が延びて様々な場所に立ち寄るのではないかと考えている。若者は別の目的のついでに金山に立ち寄ることが多いと考え

	ている。その意味で市民会館は非常に強いツールであり重要だ。
松本委員	歩いている時にいろいろと回ってもらえるとよい。
JR 東海企画開発部 担当課長	バリアフリーのエリアを広くする必要があるということだろう。
松本委員	バリアフリーにあまり触れていないのでどこかで触れたい。誰でも来られるようにしなければいけない。緑か地震災害のいずれかの項目に記載すべきだろうか。
名古屋鉄道株式会社 事業企画部企画担当 課長	外国の方の志向についてはまとめに加えるべきである。P.45の上から2番目に記載されている将来へのニーズについて、子育て支援なのか病院なのか、何のニーズかを知りたい。
住宅都市局まちづくり 企画課企画係長	例えば P.8 の結果にもあるように、1人暮らしの女性の場合、高齢者が多く病院のニーズが際立って高い結果となった。母数が少ないので多数派と言い切れないが、注目できる要素である。 バリアフリーについては資料2の P.81 に触れており、記載した考え方に則って進めていきたい。
松本委員	バリアフリー対応は今や常識で、スマホを使ってトイレの場所など検索できる仕組みなども必要。 駅の周りの人の動きを色の濃淡で可視化できる地図アプリがある。人の動きがリアルタイムや1、2時間前というように見ることができる。金山を見たら、夜は南の方に人が流れていた。

2. 金山駅周辺まちづくり構想（素案）について

発言者	内容
松本委員	パースが今回増えた。良く検討して描かないと今後困ることがあるかもしれないが、よいものはどんどん描いていってほしい。
名古屋鉄道株式会社 事業企画部企画担当 課長	P.53 のコンシェルジュ機能はよいと思う。屋外のようなが、あまり見たことがない。何か参考にしたのか。
住宅都市局まちづくり 企画課企画係長	屋内の施設では鉄道事業者の施設を参考にした。屋内外どちらにするかは重要ではなく、今回の計画の象徴となる北側オープンスペースをイメージした。広さを生かすことができる。逆に屋内だとアイデアの広がりが乏しくなると考えている。
名古屋鉄道株式会社 事業企画部企画担当 課長	あくまでも現段階のイメージであり、屋内になる可能性もあるということで理解した。
前川委員	水を使った仕掛けと、それで遊ぶ子ども達をあちこちで見かけ

	るが、非常に気持ちが癒されてくつろげるし、子どもも喜んでいる。パースに加えるのはどうか。
住宅都市局都市計画課長	水場について、北側のオープンスペースの真ん中に用意するのは難しいが、建物をセットバックさせた公開空地で民間による水場は実現可能であると考えている。シンボル軸を描いた P.57 のパース上で、道路空間ではない民有地に楽しげな水場のイメージを加えていけるとよい。
松本委員	パースの中に若者は多いが、子どもが少ない。P.49 に、特に道で遊んでいる姿、子どもの遊ぶ姿と両親の姿を入れてもらいたい。 P.39、49 のパースの下図の印象が同じであるため、変えた方がよい。また、子どもが遊べるスペースがないが、道や広場で遊んではいけないと誰が決めたのか。都市の中での子ども中心の社会が重要である。水がしみ出してきたり、入って遊べるような浅い水場は子どもや親と一緒に遊ぶための大事なツールである。親子が遊ぶ姿を見て周りも楽しくなる。子どもを見ながら母親が周りで休む場所として、木陰やベンチなど座れる場所が必要。子どもがけがをしないように角をつくらないことも考えたほうがよい。
住宅都市局都市計画課長	P.49 のパースは、防災をテーマとしたパースであり、平時と災害時との違いを表現するためにあえて同じ下図としている。
鈴木委員	緑を増やしたいという意見があったが、今描かれている樹木だけではあまり多くない印象を受ける。土や水場を加えると潤いが見えると思う。P.57 はシンボル軸の断面だと思うが、沿道建物の顔がすべて同じ印象である。部分的に音楽・文化を感じられる箇所をつくるなどして、変化を付けるとよい。
松本委員	ありきたりな絵という印象を持つ。人の動きを包み込む空間が必要であり、建物の隙間に人がいるわけではないという感覚が必要。ラゾーナ川崎のステージは広場の真ん中にある点が問題である。また、ゲートのようなものが置かれていた。仮設ならよいが、人がぶつかる危険性がある。常設で段のあるものや水・樹木などは人の動きのないところに置いてほしい。
名古屋観光コンベンションビューローコンベンション部長	アンケート調査資料の P.8 で観光案内所のニーズがなかったのがっかりしたが、P.53 のパースに反映してもらい個人的にはよいと思う。オアシス 21 をイメージしたと感じた。
名古屋まちづくり公社経営企画室長	地元の方の意見の中に、金山の特徴はにぎわいと文化施設があり、住居が近接しているというものがあつた。古沢公園がおそらく将来的な文化施設の位置になると捉えているが、駅前広場のパースは古沢公園の代替場所をイメージしたものか。公園の代替場

	所として子どもが遊べる場所を表すパースがあるとよい。
住宅都市局まちづくり企画課企画係長	古沢公園を代替しているイメージではない。しかし、古沢公園は街区公園として近隣住民が利用し、適切に管理してもらっているため、公園も意識しながら全体の施設配置を考えていきたい。
松本委員	今の子ども達は公園で遊ぶが、道では遊ばない。車が道を占領するとともに公園がつくられ、子ども達は追いやられた。都市は子ども達から遊ぶ権利を奪っている。子育てしやすいまちとして、道と公園で遊べるイメージを持って進めてほしい。
交通局経営企画課主幹	P. 59、60、86 の動線計画図の配置はイメージと考えてよいか。
住宅都市局まちづくり企画課企画係長	イメージである。具体的な配置は現在調整中である。
松本委員	シンボル軸や広場に愛称が付くとイメージが湧きやすく、行きたくなる。広場であれば金太郎広場、もちのき広場などで、シンボル軸は猫道道路、狸小路、姫様通りなどだろう。尾張にちなんだ名前でもよい。自然に愛称がつくとよい。
交通局資産活用課長	P.41、49 のパースは日比谷野外音楽堂のように見えるが、北口に大きなスペースを確保したステージを計画するのか。P.6 のアスナルの写真をイメージしてこのようなものを考えているのか。 お年寄りがほとんどいないことも非常に気になる。車いすの方がいないことも気にかかった。
住宅都市局まちづくり企画課企画係長	金山といえばアスナルであり、そのステージから文化が生まれたのでどこかにステージ機能は残したい。但し、店舗を利用すると安全面で心配なので、店舗とは別の場所にステージを設けたい。
松本委員	現在は、上から物が落ちたり、客席に人が乗り過ぎると落ちたりする危険があるが、この雰囲気はとても好きである。今回のパースが決定ではなくて、今後引き続き様々な案が出てくると思う。
中区役所まちづくり推進室長	にぎわい、活性化がコンセプトであるが、地域住民の視点を反映させてほしい。資料 1 の P.44 に記載されているように、特に居住者からニーズが高いのが地震災害対策や緑やうるおいである。駅周辺の住民に限らず、中区住民の要望とも一致する。また、都心回帰で年配者も増えるが、若い世代の住みやすいまちを目指してもらいたい。防犯についてよい手法があるのか、犯罪が起これにくいまちづくりができるのか、そのあたりも考えてほしい。
松本委員	防犯について、国際化してくるといろいろな問題が出てくる。この場に専門家がいなくてもあり具体的な対策方法は提案できな

	いが、住んで安全・安心のまちについて考えてほしい。
住宅都市局交通施設 管理課長（代理）	P.53 のパースを見て、金沢駅の交通広場の案内所を連想した。金沢の場合は、バス路線が沢山存在し、観光客も多く、分かりにくいため非常に目立つ場所に作っているが、金山にこのイメージほどの大きさが必要なのか疑問に思った。乗り継ぎ利便性の向上のためには駅の中に置いた方が便利ではないか。 P.45 のパースから、シンボル軸を広くとって、まちかどオーケストラみたいなことをイベントとして実施することを連想した。子どもが道で遊べるのはよいが、積極的に道で子どもを遊ばせるのには抵抗を感じる。特定のイベントの日に限定するならともかく、金山のように人が沢山往来する道では、多少道幅が広くても子どもには危なく、親も心配する。公園で遊ぶのはよい。
住宅都市局まちづくり 企画課長	道路上の空地を生み出して初めて、演奏できたり、子どもが遊べたり、水場が確保できたり、といったことが可能となるが、それは民間の敷地の中での話になる。 スケジュールについて、一気に更地にして工事を進めるとまちとしての機能が失われることになるため、にぎわいや文化をできるだけ継続し、つなげながら市街地を更新していきたい。
松本委員	壊してからつくるのではなく、新しい場所ができあがってから壊していかないと継続性がなくなってしまう。しかし、スペースの余裕があまりないため、スケジュールの組み方が難しいだろう。 P.53 に描かれているキャリーバックについて、横に倒さず直立させて運ぶ海外旅行用の大きな 4 輪タイプに絵を変えてほしい。2 輪タイプのものはぶつかったりして危険である。
交通局電車施設課長	P.44③回遊性の向上という項目について、古沢公園の方まで、回遊性をもたせるために、魅力的な施設、店を置くだけでは回遊までにはならないのではないかと感じた。人々は自然に足を運んだとしても、往来するだけになってしまう。 P.67 のスケジュールについて、交通結節点強化の情報発信はコンシェルジュが一つの仕掛けになると思う。金山地域を周辺地域を含めて PR できるパンフレットなどを準備できるとよい。地域内の回遊性向上についても、金山駅だけではなくて地域の所々に情報発信する仕組みを置くか、商店街の人が情報発信する仕組みを作るなど充実させて、施設配置に反映してもらえればよい。
松本委員	P.44 は交通機関の回遊性に見えるが、もう一つ大事な点である徒歩での回遊の内容が薄い。徒歩の回遊については、シンボル軸として表現されているが、回遊になるのか心配である。

鈴木委員	回遊性というキーワードは気になっている。P.41 のパースはにぎわっている絵だが、①～③について、P.44 に関わるような、地域間の内外につながる回遊をイメージしにくい。例えば駅に降りた後の移動についてイメージが湧くとか、乗換のしやすさを表現したようなパースを作成して、外とどう繋がっていくのかをここで扱ってもよいと思う。 まち中で子どもが遊ぶのは危ないという点について、歩行者という目で見れば、シンボル軸ではそうかもしれない。しかしそこからにじみ出た枝部分に、商業施設や地元のお店に立ち寄ることができる子どものための道というものがあってもよい。メインの通りは大人や大勢の人が行き交うが、シンボル軸からにじみ出た、例えば住宅地に繋がる道に子どもが遊べる場所などをつくる。そういった方法で回遊性という言葉を表現できないだろうか。
松本委員	東京駅から皇居まで続く道がある。きれいな道ではあるが、一本道をただ往来するのみで、面白くないし寂しい。シンボル軸から途中で左右に曲がって別ルートで戻れるということが回遊性なのであって、回ることができる道が必要である。行きは急いで、帰りはゆっくり寄り道して帰れるとよい。 枝の道について、世田谷などではプレーリーダーを置いた冒険遊び場があり、子どもが自由に遊ぶことができる。金山で同じことができるかはわからないが、遊び場は枝の部分で出せると思う。
交通局自動車施設課長	どのパースも魅力的で行きたくなる。P.40 下のパースについて車道との仕切りロープに隔たりを感じる。P.46 の演奏風景のパースは将来をイメージしたものだと思うが、さみしい。パイプオルガン入れるとか側面にテラス席を設けるとか、何かしら具体的に決まっていることがあればもう少し描きようがあるのだろう。
松本委員	具体的な計画が無くても描いてしまってもよいと思う。やりすぎだと思われてもよいから未来型の演劇がどうあるべきかを考えて描いたらどうか。今のパースであれば写真を載せれば済む。
緑政土木局企画経理課主幹	パースについては別途事務局と相談したいことがある。施設管理者として将来担当する可能性のある物件については細かく指摘していきたいと考えている。 バリアフリーについて、平成 15～17 年の計画では P.81 の参考資料で問題ないが、現在はだいぶ状況が変わってきている。そのため、どのくらい内容に加えていくのか検討が必要である。例えば、障害者差別解消法が平成 28 年 4 月から施行されれば、対応が変わる。また福祉都市環境整備指針も現在改定作業中である。

	できれば精神障害者へ対応するという新しい事柄を本編のバリアフリー部分に入れておいた方がよいのではないかと。健康福祉局が本日いないので事務局から話してもらうのがよいと思う。逆に当然の前提・基準という考え方で割愛する方法もあるかもしれないが、掲載するのであれば金山ならではの配慮事項があればポイントとして入れておけばよいと思う。 スケジュールについて、事務局は建て替えに伴う施設の撤去する順番や、施設の代替地についてなどイメージを持っているだろう。それについて事前に関係部局との調整が必要だと思う。スケジュールの表現方法については、該当エリアを番号付けして、その番号をスケジュール表にも表す方法などかどうか。また、一つの枠の中に複数の矢印が入っている部分については、エリア分けして、時間軸に対して作業イメージが付きやすくなるように表現されるとよいのではないかと。作業内容に対してのゾーンの特定が難しいようなものは、フチ部分をぼかした丸印で表現したり、「エリア全体である」と注意書きを入れるなどの方法がよいと思う。
松本委員	スケジュールの部分わかりにくいと感じている。今のアドバイスを生かせばわかりやすくなるのかもしれない。
市民経済局観光推進室長	観光の観点から、現在の金山はいつも一定のにぎわいがあり、来訪者がたくさんいる。また P.29 に名駅、栄との連携と記載されているが、金山に求められる役割は、利便性やにぎわいだけではない。名駅や栄との差別化も考えて、まちづくりの軸を歴史や伝統に置き、このまちではどんな観光ができ、どんな個性があるのかを端的に表せるようにすることが整備する上で求められる。 P.34 に記載されているように、点在しているが歩いていける圏内に金山神社、東別院、熱田神宮、堀川など名古屋の歴史の原点や、築城前の宮の地区の資源が地域資源として残っているが、それが P.20 の取組みの第 2 ステップに書かれている。「ソフトなまちづくり」「まちのシンボル・名所づくり」に繋がっていると思う。 シンボル軸が記載されている P.58、60 などに、このメインストリートのパースがない。神社を描いてほしいわけではないが、何かしら歴史的な街並みを感じさせるような内容で一枚作成できるとまちづくりの方向性が感じられてよいと思う。例えば、東京のコレド室町ではビルの狭い谷間にある歩行者通路を、和風をうまく取り入れたモダンなファサードにしている例がある。 また、名古屋の伝統文化である有松の雑貨が買えるとか、熱田神宮の案内があるとか、民間の取組みでよいので、まちの道路の

	周辺に出てくると、名古屋の歴史を金山の地域テーマとして展開できるのではないかと思います。
松本委員	まさしく歴史の元にまちができています。東京だと原宿、渋谷、池袋などかなり個性がはっきりしているが名古屋は少しはっきりしない。歴史で特徴を出し、一言で金山を表現できると一番よい。名古屋城と熱田を結ぶ途中にあり、堀川とその水運が現在も利用できるが、その辺を掘り起こす必要がある。歴史に基づいた愛称を付けたり、云われを元にした銅像など造って待ち合わせ場所にするなども大事。金沢は駅前にそういったものが建っている。
市民経済局文化振興室長	パースに屋外ステージとかパフォーマーなど描いてくれたのはよいと思う。ただし、屋外ステージは期待させ過ぎてしまう。ストリートミュージシャンが歩道で演奏するイメージは管理担当の部署からすると、警察も絡んだりして大変かもしれないため、事務局で問題のないように適宜絵の処理をしてもらえるとよい。 それからホールの演奏中のパースはどこかの講堂みたいな絵なので変えてもらえればと思う。 回遊性について、回遊の対象となる大津通にあるにぎわい集積軸の扱いがないため、記載した方がよいと思う。地元の人も期待している。市民会館の建て替え位置については、あの公園でいいのか悩んでいる途中なので今後事務局と詰めていきたい。
松本委員	市民会館は壊してからつくるのではよくないため、うまくスケジュールを組まなければいけない。駅の上に施設を積み、空いた土地に市民会館などのスペースを作れないか。駅の近くの人には行きたがらないが、遠くから近くに移る提案には割合賛成すると思う。予算の話もあるのでそう簡単ではないかもしれない。
防災危機管理局主幹	帰宅困難者を担当しており、防災の視点で発言する。まず金山は駅周辺の雰囲気と住居エリアとが混在している特徴があるが、全体的に帰宅困難者でまとめている。次に、P.49にあるように防災拠点の充実の際に求められるものについて、例えば災害時でも使えるトイレや災害時の水の供給や排水の問題、耐震化の問題などについて記載がないが、もし必要であれば扱ってほしい。地震対策という観点で考えた時、空地の活用など面的な話が出てくるが、新しいまちを作る時でないとハード整備が難しい。 シンボル軸の道幅について、防災面からの必要な道幅という観点も持ってほしい。 P.50にある広域避難場所について、金山は白川公園、名城公園などと違って鉄道結節点であることを意識することが必要。観光

	案内所も災害時には情報発信拠点になるかなど、既存施設が災害時に 2 次的な利用ができるような発想で整備が必要。けが人を置いておくスペースについても検討が必要である。 様々な要望に応えることで特徴が薄れてしまっている気がする。パースも栄や名駅との違いを感じない。例えば、京都では色を規制することで風景に特徴が生まれている。文化歴史を軸にするなら、やることは同じだと思うが表現の仕方や文字の使い方で大分変化を付けられる。
松本委員	防災面で人のたまり場が必要だろうが救急車とかの緊急車両寄り付け場所も必要なのだろうか。
住宅都市局まちづくり企画課企画係長？	車両が通れるスペースが必要である。
松本委員	防災の話は最低限計画しなければいけないところだろう。
JR 東海企画開発部 担当課長	今後、市の中での管理者が決まる過程で、規模縮小しなくてはいいなくなってくると思うが、緑は多い方がよい。それも敷地の前面道路に面した場所で作ってほしい。民間開発では一定の緑化率が求められるが、道路の街路樹や花壇は維持費の問題で比較的手間のかからないものになってしまいがちである。コンクリートとか石とかにもなりがちである。例えばミッドランドスクエアのように屋上に緑があってもよいが、一般の人は行きにくい。例えば名駅地区ではおもてなし花壇など街づくり協議会が花を植えたりしている。アンケートでも地元へ関わっていきたいという声もあったことを考えると、近場の道路で花を維持するなど民間の力を生かして緑が配置されるとよい。
名古屋まちづくり公社経営企画室長	P.67 の主な実施主体について、P.66 にあるように、地元の組織とともにまちづくり協議会を目指して検討を進めているが、特にソフト面では防災意識が高いので実施主体の中でまちづくり協議会を加えていくのはどうか。
松本委員	賛成である。まちは住民がつくるもの。住んでいる人がバルコニーで花を育てるより、街中で場所を設けてコンテストを実施し表彰するなどしたほうがよい。絵を飾って子どもに賞をあげるなど、市ではなくまちづくり協議会でやれるとよい。
住宅都市局まちづくり企画課企画係長	P.67 に記載している都市再生安全確保計画があるが、これを実際につくるのは市ではなく協議会である。民間事業者も大きな企業だけではなく色々な事業者に参加してもらおう。さらに住宅都市局、防災・危機管理局、中区、熱田区を加えた 5 者で実施主体となる協議会をつくる。

名古屋まちづくり公社経営企画室長	防災面だけではなく、情報の発信など様々な役割を担えると思う。期待を込めてソフト面のところに記載してはどうかと思う。
松本委員	地元の協議会とか記載するのは P.67 の主な実施主体の一番最後のところだろうか。
前川委員	市民会館のパスについて。現在と同様大ホール他に、中ホールも整備するのであれば、イメージを入れてほしい。 回遊性について、東側の大津通と市民会館西側の道も重要である。東西でそれぞれ特徴を作り楽しめるように計画できればよい。
松本委員	シンボル軸というと大きい道路をイメージするが、ここでは使い方がシンボリックだという考え方だろう。権威主義的な道路ではなく人間が使えるシンボルとなるようなイメージがよい。使うことに意味がある。
緑政土木局企画経理課主幹	公共空間の利活用について、公共空間の美観上の整備は指摘の通り公共だけでは間に合わない。おもてなし花壇のように地域の助力で成立していることがいくつかある。まちづくり協議会の方に参加してもらい、汗もお金も出してもらいたいイベントもある。街路樹についても、街路樹更新の計画も立てたところである。あまりに大きくなったものは面倒見きれないので伐採する。代わりに年数が経過しても大きくなり過ぎず花がつくような木に変えるといった工夫をしようとしている。しかし、新植、植え替えに至る手前のお金さえない状況で計画が反故になりつつある。 大きくまちの顔を変えていくには、地域の皆さんの主体性のある取り組みが必要であり、P.67 の主な実施主体にも可能であれば記載してほしい。ただ、市民参加は難しい。例えばプランターはどこに置くのか、イベント時以外の日常の管理は誰がするのかなど決めなければいけないし、また技術支援や指導、助言が必要だったりする。役所は人件費がかからないと思われがちだが、実際は出ずっぱりとなり、外部へ委託と比べて相当大変。緑政土木局としては、熱意をもってやってもらえる民間の方に一生懸命協力し、応援しなくてはいけないと考えている。大きく計画が動き出す前でも、地域の中でそういう目があるのであれば関係部署である緑地維持課、土木事務所にも声をかけて欲しい。継続的な取組の中で、まちの顔が変化するのに合わせて活動場所も変わっていくというイメージで継続の努力を続けて、まちの顔をみんなで少しずつ作っていくようにしたい。
松本委員	環境に左右されると思うが、木は狭いところに植えると小さく育てたり、切らなくてはいけなくなる。せっかく育った木が切ら

	れるときみしいので、事情があるのはわかるが、切らなくても済む環境をつくってもらえるとよい。 タイでは庭木を植えたら、建物より高くしなさいといわれるが日本ではとんでもない。葉っぱが落ちて自分の家も隣の家も樋がつまってしまうので切ってくれといわれてしまう。緑豊かにするためのまちの意識があってもよいと思う。木は大きくなると下水管に悪影響を与えたり、いろいろあるが、意識が変わるとよい。名古屋市は木が大きな素晴らしいまちなので可能性はある。
JR 東海企画開発部 担当課長	おもてなしの仕方で緑化率のカウントを変えてもらえるとよい。人目のつかない場所に植えるよりも、歩行者の目につく場所に植える方をより多くカウントする仕組みにすれば街路樹が魅力的になり、鑑賞できる住民にとってもよい。費用はどちらに植えてもあまり変わらない。局が違うためいろいろ調整が必要だとは思いますが、事業者が選択できるようにしてもらおうとっとよい。
住宅都市局まちづくり企画課企画係長	民間事業者が例えば容積のボーナスをもらう際の見合いというものがあるが、緑化率の判断については住宅都市局がすることになると思う。一定の担保性があることになるかと思うが、敷地の端の空間の道路上のスペースでも担保性をもって行政にアプローチしてもらえると、評価につながってくることはあると思う。
松本委員	JR、名鉄へのお願いだが将来的に改札をなくすことは考えていないのだろうか。JR も名鉄も将来的には駅を開放し、鉄道は路面電車のようになり、プラットフォームとか鉄道施設全体が公になり自由になる時代が来るのではないかと思う。みんなが持つようになるマイナンバーカードを自動的に検知して請求・支払いできる仕組みを構築すれば10～20年先には可能ではないだろうか。利用しやすいし、そろそろ未来型の駅を金山は考えてもよいのではないか。全体がすっきりしてよい。
JR 東海企画開発部 担当課長	技術があれば将来的には可能かもしれないが、IC カードをどの駅に導入するか悩んでいる段階なので、まだ難しい話だろう。
松本委員	パスについて、大きな変更ではなく、人間や空間の表現を多少変えてほしい。一番大きいのは劇場のところだろう。それ以外の場所は中の様子を変えると、結構変化が出ると思う。歩行者の回遊性についても触れるよう修正してほしい。あまり費用をかける必要はないが、水場がほしい。その他、緑や防災、市民参画の話もあった。 以上